

講義名	経営組織論 B			
担当教員	多井 剛			
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考
主題と概要				
<p>企業の各部署に触れ、縦割り組織や部署横断的な取り組みの事例を紹介します。 企業の本質的なイノベーション（変革）事例を紹介しますので、 企業存在の意義を自分で提出していただきます。 また、グローバル企業で通用する柔軟な思考を獲得することを目的としています。</p>				
到達目標				
<p>あなたが経営者になったとき、良くも悪くも行き詰った境況である場合に、打開するための柔軟な思考を獲得してもらうことを目標にしています。</p>				
提出課題				
<p>授業期間中に課題の提出を求めます。</p>				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
<p>課題提出後に授業で講評を行います。</p>				
評価の基準				
<p>すべての課題を十分な内容で提出し、期末テストでよい点を獲得することを評価します。 なお、評価は授業期間中の課題は50%とし、期末テストは50%の評価とします。</p>				
履修にあたっての注意・助言他				
<p>課題の提出は、Microsoft Officeの各アプリケーションで作成したファイルを受け付けます。 提出先は流料ポータル「教務開示」から該当する課題を見つけてください。</p>				

教科書				
.教科書は使用しません。				
プリント資料及び参考文献				
<p>プリント資料適宜 流料ポータルより受講生自身でダウンロードして印刷してください。 （多くの内容が含まれる冊子については教員が印刷して配布します。）</p>				
授業計画				
<p>第1回 社長一人従業員なしで経営すると、どんな仕事があるのか 第2回 日本と海外における企業風土（1） 第3回 日本と海外における企業風土（2） 第4回 営業部門の仕事 第5回 営業部門と制作・調達部門との確執 第6回 製造部門の仕事 第7回 製造部門の品質管理に関する課題 第8回 縦割り組織と部門横断的組織のメリット・デメリット 第9回 新しい技術開発に挑戦・進捗するための方策 第10回 社長や組織の長の論理的な役割について 第11回 責任の所在について 第12回 責任役員について 第13回 子会社の悲劇・出向させられる人/出向を受け入れさせられる組織 第14回 解雇による組織と手続 第15回 解雇に対する対抗手段・企業組織の論理に根を打つ</p>				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
ア：PBL（課題解決型学習）				イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート				エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション				カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>なによりも、企業活動に関するニュースを見てください。 講義で使用するスライドや資料は流料ポータルに掲載しますので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用してください。 予習と復習を合わせて4時間以上が必要です。</p>				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>本科目合格後、以下の知識・能力を得ることとします。 企業経営の仕組みや組織行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解することができる さまざまな企業や組織の現状分析から仮説、検証を通して、企業や組織のリーダーに求められる、具体的な改善策や解決策の提案ができる</p>				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
<p>Responを使って授業中にアンケートを行います。</p>				
実務経験の有無及び活用				
<p>実務経験20年あり (プログラマー システムエンジニア ICTコンサルタント) ICTによる組織の問題解決に必要な事例を授業内で解説します。</p>				
備考				
<p>「経営組織論A」は基本編、「経営組織論B」は応用編です。</p>				